

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

教科 教科書	芸術 東京書籍 書道 I	科目 書道 I	副教材	学年 2年次	2年次	単位数 なし	2単位
レポート 添削指導	6通	スクーリング 面接指導	8回	メディア 視聴票	4通	試験	2回
指導 目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。						
No	日付	レポート 提出日	単元	学習内容	面接 回数	メディア(NHK高校講座)	
1	4月12日	5月22日	書写から書道へ (1)書写で学んできたこと (2)用具、用材の製造方法 (3)姿勢、執筆法	(1)中学校書写で学習したことの確認として、楷書と楷書に調和する仮名について学習する。 (2)書道の学習に必要な用具、用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。 (3)基本の姿勢、執筆法、後片付けについて、目的に合わせて多様な方法があることを理解する。	2	1 書はアートだ! 2 線に無限の可能性 3 臨書に挑戦	2
2	5月22日	6月19日	漢字の書 (1)漢字の成立と変遷 (2)古典に基づく学習「唐の四大家」	(1)漢字の成立と変遷について理解する。 (2)臨書の意味や方法を理解し、関連する書道用語について学習する。「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」を比較し、それぞれの文字から受ける印象について考える。 楷書の古典を臨書する意義について理解する。 「人物と時代」なども活用する。	1	4 くらべて発見!書の個性 5 岩肌に刻まれた書 6 写経に挑戦	
3	6月19日	7月17日	漢字の書 (1)行書の特徴 (2)行書の古典作品 (3)実技 永和 毛筆	(1)行書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。行書の特徴を理解する。 (2)「風信帖」行書の古典を臨書する意義について理解する。「人物と時代」なども活用する。 (3)楷書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。	1	7 書聖・王羲之の世界 8 空海と日本の書の広がり 9 学んだ古典を使ってみたい!	
4	7月17日	10月29日	漢字の書 (1)草書の特徴 (2)隸書の特徴 (3)実技課題「曹全碑」	(1)草書が成立する過程や草書の特徴について理解する。 (2)隸書が成立する過程や隸書の特徴について理解する。「曹全碑」を鑑賞し、その美について理解する。 (3)「曹全碑」の臨書を通して、隸書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する	2	10 パスポートの不思議なあの字は? 11 波磔の美 12 躍動する筆	2
5	10月29日	11月27日	仮名の書 (1)仮名の成立 (2)実技課題 単体いろは歌	(1)仮名の成立と変遷について理解する。 (2)(3)仮名の基本的な線、平仮名の単体の特徴、変体仮名、連綿について理解し、練習する。	1	13 書つた、読むとホわおう 14 ひらがなの誕生 15 わかるとたのしい美の秘訣 16 線と空間のハーモニー	
6	11月27日	1月23日	漢字仮名交じりの書 (1)漢字仮名交じりの書の変遷 (2)鑑賞「書的美や風趣を味わおう」 (3)実技課題「創作カード作成」	(1)漢字仮名交じりの書の変遷について理解する。 (2)篆刻の作品を鑑賞する。 (3)身近な場面で気持ちを伝えるために書くものについて理解し、自分たちの創意を生かして書く。街中や身近な生活の中で生かされている書を探し、自分たちの生活でどのように生かすことができるかについて考える。	1	17 身近な人に伝えよう 18 オリジナル印を作ってみよう 19 手書きのぬくもり 20 自身の書を創造する	
学習の成果に係る評価規準							
【知識・技能】 ・書表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。							
【思考力・判断力・表現力】 ・書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。							
【主体的に学習に取り組む態度】 ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 ・主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている							
○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。 ○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。							
単位の修得の認定に関する基準							
観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対し、科目に配当された単位数の修得を認める。							